

第3回環境部会記録

1. 日 時 平成 25 年 1 月 30 日 (水) 10 : 30 ~ 12 : 30
2. 場 所 本会会議室
3. 出席者 (順不同敬称略)
 - 会 長 三井所清典 (芝浦工業大学 / アルセッド建築研究所 / 東京)
 - 部会長 中村 勉 (工学院大学 / 中村勉総合計画事務所 / 東京)
 - 副部会長 篠 節子 (篠計画工房 / 東京) 澤地孝男 (建築研究所 / 茨城)
 - 委 員 大野二郎 (日本設計 / 東京) 河野 進 (河野進設計事務所 / 東京)
 - 山口克己 (アルセッド建築研究所 / 東京)
 - 山田貴宏 (ビオフォルム環境デザイン室 / 東京)
 - 糸長浩司 (日本大学 / 神奈川) 宿谷昌則 (東京都市大学 / 神奈川)
 - 辻 充孝 (森林文化アカデミー / 岐阜) 阿部弘明 (空間デザイン / 大阪)
 - 連合会 山中保教
 - 常務理事 木村行道
 - 事務局 山田隆一、高橋宏志、永田厚生、阪本 靖

4. 報告事項

(1) 新委員について

新たに参加いただく大野委員、河野委員の紹介が行われた。

(2) 住宅省エネルギー施工技術者講習 (C 講習) の開催状況

全国木造住宅生産体制推進協議会 (事務局: 木活協)、地域協議会で実施されている同講習の開催状況は、現在、384 会場で 11,917 名の申込みがある。なお、同講習は 5 年間で 20 万人の大工、建築士をはじめとした建築技術者の育成を目標としている。

5. 議題

(1) 本部会の具体的検討テーマと今後の進め方について

中村部会長より以下の説明があった。

前回部会で検討課題①~⑦を取りまとめ、中心となる委員名を入れた。今後の進め方、広め方の戦略について、また、課題の追加、削減等についても併せて協議いただきたい。

- ①省エネ性能セミナー
- ②仮称: 地域型環境住宅研究会
- ③環境配慮契約法の推進
- ④ストック改修
- ⑤エコ・コミュニティアーキテクト等
- ⑥自然、再生可能エネルギーの普及
- ⑦環境教育戦略

(各委員の意見)

①省エネ性能セミナー

- ・時間の無い中でコンテンツが作られているようで、特に温暖地で断熱をどう活用推進していくのかのフォローが必要。
- ・考査は〇×式で難しくはないはずなのに考査の合格率が低いようである。
- ・地域への対応と重点ポイントをわかりやすく小冊子として作り上げるのも活動の一つか。地域

への対応は単位会と連携の上、問題点をつかむ必要がある。

- ・辻委員にも中心的にお願いしたい。

②仮称：地域型環境住宅研究会

- ・課題①と②を合わせて省エネ関連基準として澤地委員にまとめて頂けないか。
- ・課題①の主たる断熱施工の話に加え、設備機器、日射遮蔽等も考える必要があるか。コンテンツは国にも省エネ機構にもあるので同じようなものがあっても仕方がないので、一考を要する。
- ・環境戦略の観点からは課題⑦ともリンクすると思う。
- ・建築士会としてのスタンスを決めることが出発点である。次に考え方を整理し講習まではできなくともHPで発信はできる。
- ・設備の性能とは何か。
- ・エアコン、床暖、温水、給湯、太陽熱もろもろである。機械メーカー任せでなく、建築士サイドが積極的に関与すべき。
- ・この部会で新たな理念を作るというよりは、検討課題ごとに薄めの小冊子を用意しHPでダウンロードできればよいのではないか。
- ・ユーストリーム、ユーチューブでいつでも気軽に眺められるものもよい。
- ・①②⑦の3チーム合同で議論願いたい。
- ・自分の作ってきた建物で使われるエネルギーを数値でわかってもらう事が第一歩か。
- ・C講習で技術的な話は押さえられているが、頭でっかちではいけない。実際に温度計を見る、数値化してみるといった実体験が肝要で、それらが講習のフォローとなると思う。
- ・学生との取り組み実験だが、自宅の家電機器を書き出し1日のそれらの使用エネルギーを数値で示してみた。給湯エネルギーが以上に高かったり、その人の暮らし方が見てくる。
- ・作り手が作りっぱなしでなく、改めて自ら作った家を調べるやり方もある。
- ・設計者が施主に省エネ生活を促すための指針、方向などを建築士会が示せないか。
- ・⑥に関する件だが、ハウスメーカーの攻勢が激しい。パッケージ売り、5年、10年のアフターフォロー等に在来でどう対抗するか。会員にはハウスメーカーの間もいてその辺りは困難か。
- ・敵対するのではなく、シェアしていくスタンスで良いのでは。地域の会員を支援は大切である。
- ・②には山田委員、山口委員にもお願いしたい。

③環境配慮契約法の推進

- ・地方の行政で中々広がらない。地方自治法の壁をどう乗り越えるか。
- ・設計者選定の多くが入札となっている問題があった。単なる価格競争をやめていかに環境に配慮しているのかをプロポーザルで確認できるはずである。
- ・例えば車の購入にも、価格以外に環境配慮の点を評価して選ぶやり方もある。
- ・そもそも環境に配慮した設計とは何か。広がっていないのは熟知した設計者が育っていないことがある。設計者向けのガイドブックを作るには、課題①②⑦の議論が下地となる。
- ・現状分析と普及しない原因の調査、そして打開策を考える。
- ・士会与行政の関係は、行政協力という受動的な関係である。これまで士会側は資格者団体なので業務にはかかわらないスタンスで来たようであるが、今後働きかけをしていくことは重要である。
- ・③の話は事務所の実績、規模で勝負にならない。環境配慮計画の評価のウエイトも高くないのが現状である。
- ・営繕での実績評価は少しずつではあるが改善されている。
- ・地域の中で門戸を開く制度の観点から阿部委員にも協力いただきたい。

⑥自然、再生可能エネルギーの普及

- ・自然エネルギーも少し噛んでみるとわかる。実際にエネルギーが使われるためには、東京を乗り越して地方に中東のエネルギーが持ち込まれる。地域ポテンシャルと言われるが、これからは環境の時代なので文化や歴史も含めた環境のあり方を地域の土工等と連携していく。士会は地域との結びつきが強いのでやりやすいのではないかと。電機メーカーが屋根にソーラーパネルを取り付ける、そんな屋根が連なる町に代わっていくのはおそろしいことである。

⑤エコ・コミュニティアーキテクト等

- ・はじめに現状を健康診断的に調査しておくことから始めたい。
- ・元々地域に根付いた活動をカナで示したのがコミュニティアーキテクト。既にやっていたことをカナ表記にされ反発する人たちもいた。
- ・士会、JIA,学会の3団体くらいで共同活動をするのはいかがか。
(その他)
- ・WGの進め方は。
- ・それも検討課題の一つである。具体的には課題ごとの小冊子の作成か。
- ・一般の人は環境の大切さに気が付いているのか。誰に何をどう頼むとよいのかが分からないと思う。
- ・施工者のレベルの向上にはお金がかかり補助が必要。一方で自身の設計、施工活動をまちづくりに広げている地道な活動をしている人もいる。彼らを表彰等で讃えてあげることも必要。
- ・例として、地道な活動の人の作品がデザイン性のかけらもないと酷評されたが、内容は社会に大きく貢献している。連合会ではデザインの評価などは他に任せて、それらを賞賛すべきではないかと思う。
- ・環境問題への取り組みはJIAでは早かった。士会においても今後広げていきたい。また、環境関連の表彰も検討したい。
- ・環境とバランスのとれた作品は平準的になりがちだが、表彰したいものもある。一般人の求めるものはファッションショーの先端的な衣装そのものではなく、それを踏まえた流行を取り入れた洋服ではないかと思うと建築も同じかと思う。

以上の意見が出され、課題①～⑦の具体的取り組み案について以下の件を踏まえ各委員から提案できる課題を選択の上、2月末までに事務局へ提出する。

- ・目的
- ・対象者（設計者か施工者か施主か行政か等）
- ・普及方法
- ・プロダクト（アウトプット）のイメージ（例えばセミナーを行う等）

(2) 次回の部会の開催について

- ・日時 3月13日（水）10：30～12：30
- ・場所 本会会議室

以上

環境部会具体的検討課題（案）

前回部会でまとめた、本部会の検討課題は以下の①～⑦である

① 省エネ性能セミナー

省エネ性能の普及啓発のために県支部でセミナーを企画すること、住宅省エネルギー施工技術者講習（C講習）のフォローとして、地域ごとに対応でき、重点ポイントをまとめた資料の作成とそのためWGの設置

担当：篠節子、澤地孝男、

② 仮称：地域型環境住宅研究会

改正省エネ基準と伝統木造の今後について、伝統木造とその環境性能を考えるために、仮称：地域型環境住宅研究会を日本建築家協会、日本建築学会、日建連の4会で作くり、国交省への提言を行っていく。

担当：篠節子

③ 環境配慮契約法の推進

環境配慮契約法（公共建築を入札によらないプロポーザルで実施する方策）の自治体への働きかけ、環境プロポーザルの中小事務所への門戸を開いた要項の指導、審査委員の派遣、実施の支援を行っていく。

担当：河野進

④ ストック改修

ストックをどう改修していくか、環境改修のモチベーションをつくり、環境改修を活発にするための研究を、ロングライフビル推進協会などと協働して行う。

担当：未定

⑤ エコ・コミュニティアーキテクト等

まちづくり、外部環境の向上のためのエココミュニティアーキテクト的取り組みとして、低炭素まちづくりの促進、分かち合い団地。エコビレッジの普及、エコ・コミュニティアーキテクトの人材発掘、環境コミュニティアーキテクト賞などの顕彰などを行っていく。

担当：糸長浩司

⑥ 自然、再生可能エネルギーの普及

自然、再生可能エネルギーの普及に関し、地域ごとのエネルギーセンターの活用、地域エネルギー自給自足の研究、地域経済とつながった地域エネルギー開発などの研究を行っていく。

担当：大野二郎

⑦ 環境教育戦略

中小工務店、設計者の環境実践を支援する手法の開発、住まい手、作り手、設計者への環境教育戦略を考える。

担当：宿谷昌則